

【学力向上フロンティアスクールにおける取組】(中学校用)

都道府県名	沖縄県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	平良市立北中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	5	5	1	16	31
生徒数	184	179	182	4	549	

研究の概要

1. 研究主題

<p>自ら学ぶ力を育てる指導方法の工夫 ~基礎・基本の定着を図るための指導方法の工夫改善を通して~</p>
--

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>・1年生・3年生・数学 2年生・3年生・英語 生徒の理解の状況に差が出やすい積み上げ教科であるため。 これまでの研究成果から実施学年の枠を広げ、研究に取り組むため。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

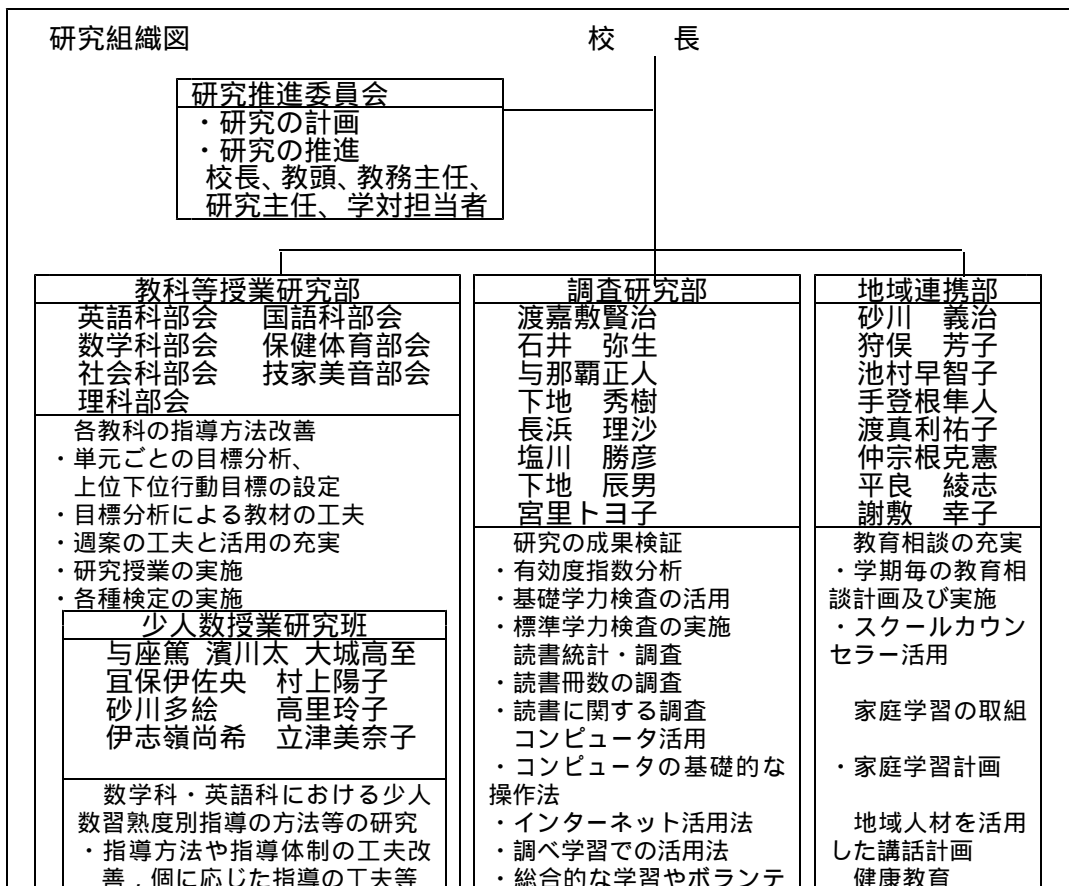
平成14年度	<p>テーマ 自ら学ぶ生徒の育成 基礎・基本の確実な定着のための指導の工夫</p> <p>仮説 少人数による授業・TT・習熟度別指導を効果的に展開することで、生徒個々に支援の充実が図られ、成就感を味わわせることで一人一人のやる気を高め、より確実な基礎・基本の定着につながるであろう。</p> <p>研究内容・方法 数学科・英語科の少人数による授業・TT・習熟度別指導の導入 少人数の学習集団編成の工夫(レディネステスト・形成的評価による学習グループの工夫)</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 自ら学ぶ力を育てる指導方法の工夫 基礎・基本の定着を図るための指導方法の工夫改善を通して</p> <p>研究の仮説</p> <p>(1) 各教科においてPDSサイクル(目標分析に基づく指導計画を作成、目標達成のための指導方法・教材の工夫、実践、評価)による授業改善の日常化を図れば、生徒一人一人の基礎・基本の定着につながるができるであろう。</p> <p>(2) 「わかる授業」「参加する授業」をめざし、少人数による授業やTT・習熟度別指導をとおして、生徒一人一人に対する支援の充実を図れば、生徒は学ぶことの楽しさ・成就感を味わうことができ、自ら学ぶ意欲を高めることができるであろう。</p> <p>(3) 指導過程において、体験学習(操作・観察・思考の場)や問題解決的な学習を設定し、その中で、思考の過程を意識させることによって、生徒はものの見方・考え方や学習の仕方に気づき、自ら学ぶ力が育ってい</p>
--------	--

<p>くであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 学習指導方法の工夫・改善について 目標分析に基づく指導計画と実践 各教科における課題の明確化と課題解決のための指導方法の工夫改善 ワークシート・自己評価・評価記録簿の工夫</p> <p>(2) 指導形態・学習形態の工夫・改善について 少人数による学習集団編成の工夫 レディネステスト・形成的評価による学習グループの工夫等 大人数における指導形態・学習形態の工夫 教材提示の工夫、学習グループ編成の工夫</p> <p>* 全教科において指導方法改善に取り組む姿勢を明確にするためにテーマ・仮説を見直した。</p>

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>自ら学ぶ力を育てる指導方法の工夫 基礎・基本の定着を図るための指導方法の工夫改善を通して</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 学習指導方法の工夫・改善について 目標分析に基づく指導計画と実践 各教科における課題の明確化と課題解決のための指導方法の工夫改善 ワークシート・自己評価・評価記録簿の工夫 シラバス等を活用したガイダンスの機能の充実</p> <p>(2) 指導形態・学習形態の工夫・改善について 少人数による学習集団編成の工夫 レディネステスト・形成的評価による学習グループの工夫等 大人数における指導形態・学習形態の工夫 教材提示の工夫、学習グループ編成の工夫</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



<ul style="list-style-type: none"> ・目標分析、上位下位行動目標の設定 ・学習シート等教材の工夫 ・習熟度別編成等の指導体制の工夫改善の研究 ・アンケートの実施と考察 ・評価、評定を生かした指導の改善の研究 ・オーラルテストの実施（英語） ・英語検定の実施 ・数学検定の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動での活用 ・読書活動の充実 ・朝の読書の推進 ・読書ノート「タッチ」への記録の定着の工夫，改善 ・学校図書館の利用活用 ・コンピュータ使用記録簿の作成と活用 ・図書館利用予約表の作成と活用 ・館内図書調べ学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健安全指導 ・健康相談活動の充実
--	---	---

指導方法改善加配のある数学・英語だけの研究にならないように、各教科が指導方法改善に取り組めるように教科等授業研究部を置いた。数学、英語はその中の少人数授業研究班として組み込んだ。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) 本校教員対象のアンケート調査の結果から、指導方法改善に取り組む姿勢が高まってきたことがわかった。

基礎的・基本的事項を定着させるため、指導方法改善に取り組んでいる	84%
教科部会における課題解決に係る協力体制ができています	84%

実力テストや達成度テストの結果の推移を見ると、特に国語と英語において度数分布の山が上位よりに移動しつつある。
各教科で、単元の目標分析を行い、教材や指導方法を見直すことができ、生徒の積極性や目標に対する意識が高まってきた。

(2) 習熟度別少人数授業を実施している数学と英語における成果として次のことがあげられる意識調査の結果から習熟度別少人数授業は生徒に歓迎されていると見てよい。

数学 3年	習熟度別少人数授業は「良い」	76%
	ワークシートによる授業進め方は「良い」	77%
	これからも習熟度別少人数授業を行って欲しい	83%
英語 3年	英語が好き	56%
	英語の授業が楽しい	55%
	習熟度別少人数授業の学級編製の仕方は「良い」	83%

数学では、3年間数単元における単元テストの正答率の平均点60.3%であった。6割の生徒には、基礎的・基本的事項が身に付いていると考えて良い。
英語では、この3年間の3年生の1・2学期の定期テスト（実力・中間・期末）の平均を比較すると、H13年度は60.3点、平成14年度は61.3点、平成15年度は68.6点と伸びている。前年度までは実施していなかった少人数習熟度別の授業を今年度は実施しており、一人一人に細かい指導をすることができ、生徒の意欲の持続や知識の深まりがみられたためだと考える。
数学・英語とも目標行動分析を行い、各グループの習熟度に合わせた目標でワークシートを作成することができ、より個に応じた指導が展開できた。

(3) 教科によって、視聴覚情報を多く与えること（社会）、身近な材料を取り入れた観察・実験の実施（理科）、パフォーマンステストの実施（理科）、コンピュータソフトの利用（家庭）、グループに分けて競争的な要素を取り入れること（保体）、生徒による自主練習の運営（音楽）、コンセプトアートの手法（美術）等の体験的な学習を取り入れることで、生徒の意欲喚起や積極性、目標を意識した活動が見られるようになってきた。

2. 今後の課題

(1) 各教科において年間、各学期、各単元でのマネジメントサイクルによる指導方法改善研究を継続し定着させる。
学校課題や校内研修のテーマ・方向性を理解し、PDSサイクルで指導方法の改善に努めている教諭が全体の50%程度である。
各種テストの結果から分かるように基礎的・基本的事項が定着していない生徒がいる。

(2) 数学科・英語科において、習熟度別少人数授業についてグループ編製の仕方を見直す。

分析した目標行動を生徒に分かり易くガイダンスをし、目標を意識した学習活動を定着させる。

勉強は大切だと考えている生徒は全体の 81 %程いるが、好きだと答えた生徒は 21 %にとどまっている。1日の家庭学習時間については30分以内、ほとんどしないの回答が82%に達している。

(3)

各教科で取り入れた体験的な学習が、知識や技能の定着につながりにくく、自主的に学習する態度の育成が十分でない。

問題解決的な学習による思考を意識させる取組が弱い。

学力把握のための学校としての取組

校内実力テスト

1 趣旨 生徒一人一人に前学年及び当該学年で身に付けるべき基礎的・基本的事項を確実に定着させるため、その定着状況・推移を判断・分析し、指導方法改善に生かす。

2 実施期日 第1回 平成15年 4月10日
第2回 9月3日
第3回 12月4日 2年生達成度テスト
1・3年生実力テスト
第4回 平成16年 1月13日(3年)
3月2日(1・2年)

3 出題内容

国数英	第1回	前学年の基礎学力検査問題
	第2回	前学年の基礎学力検査類似問題と 1学期の基礎的・基本的事項
	第3回	今年度の達成度テストまたは抜粋問題
	第4回	当該学年の基礎的・基本的事項
社・理	第1回	前学年の基礎的・基本的事項
	第2回	1学期または前学年までの基礎的・基本的事項
	第3回	1・2学期または前学年までの基礎的・基本的事項
	第4回	当該学年の基礎的・基本的事項

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

* 2月17日に「フロンティアスクール研究成果報告会」を主に保護者向けに授業参観を含めて実施する予定。

* 2月25日に「平良市学力向上対策成果報告会」で取り組みの発表を行う。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無